

ほっふ
すてっふ
じゃんぷ



2012年版 第3号

塾長コラム

あんぱんち

第二十六回

梅雨空が続く頃ですが、子どもたちは、少々の雨なら気にすることなく、外で元気に走り回っています。特に、小学生は、学年のちがいても関係なく、みんないっしょに鬼ごっこをして盛り上がっています。名教生のいいところだなど、ほほえましく感じています。私も、子どもたちの挑戦(う)を受け、一緒に走っています。そして、こんなことを思います。

ありがたいお話、名教には、小学校の低学年のときから続けて長く通っていた子が多くいます。ついこの間までは、正直、本気で追いかけてもタッチするこ

とができたのに、今では、高学年、こちらも、本気で走らないと追いつけません。子どもたちの成長を感じ、温かい気持ちになります。

さて、5月末の新聞で、「公立高校入試 複合選抜制度見直し」と掲載されていました。ご覧になった方もいるでしょう。びっくりされたかもしれません。これについて、詳細をお伝えしておこうと思います。

先月末、愛知県の大村知事が「教育懇談会」という会合を開きました。知事は、教育委員会と協議をしながら、選挙で選ばれた首長が、この地域の教育に責任を持って教育改革を進めるということで、この会合を開いたそうです。教育の専門家、産業界、シンクタンクの有識者が知事に呼ばれ、教育の課題を洗い出そうというのが第1回の会合でした。私もその内容が気になり、議事録に目

を通しました。教育の様々な側面に関わる意見が、自由に出されていたようです。会の最後に知事が言っていた通り、この会を出発点にして、内容を精査して、テーマを絞りながら、今後の教育改革を進めてほしいと期待します。

ところで、現在の日本では、大学などの高等教育は国レベル、中学、高校などの中等教育は県レベル、小学校までの初等教育は市町村レベルが主な学校を設置しています。ですから、県知事主催の今回の会合において、愛知の教育ということになると、中等教育(主に中学・高校)のあり方が話題の中心になります。

前置きが長くなりましたが、この会合の中で私たちに最も身近な話題は、高校入試制度についてです。愛知県は、私立高校も数多くある中、公立高校を目指す子どもたちの割合が多いです。ですから、愛知は公立王国と言われるれます。その公立の高校入試においては、かつての学校群制度が廃止され、平成元年より全国で唯一、複合選抜制度が取り入れられています。複合選抜制度は、偏差値による学校の序列化が進み過度の受験競争をおおるとされる単独選抜と、それを緩和しようとした学校群制度を組み合わせた制度ですが、そのデメリットも数多く指摘されています。今回の会合では、その複合選抜制度にメスを入れようという意見が知事をはじめ出席者から出ています。しかも、その点については、スピーディにやろうということですが、

私見ですが、このまま話が進むと、公立高校も複合選抜廃止、1校受験ということになりそうです。早ければ、現在の中1の生徒が高校受験をする年から変わるかもしれません。そうすると、いわゆる学校のランキングも変動するでしょう。さらに、現在の内申点重視のやり方にも見直しがかかり、当日点重視の傾向は強まるでしょう。

また、難問が出されやすい独自入試、作文などの特別入試なども取り入れられるかもしれません。いずれにせよ、違和感のある現在の高校入試制度が改革されることはいいことだと私は受け取っています。そして、子どもたちには、選抜の制度が変わろうと、高い学力を持って、これを取り切ってほしいと期待します。

今後、このニュースについては、注意深く情報収集し、機会があることに保護者の皆様にもお伝えして参ります。

塾長 西川 陽祐

今月の論語

子曰わく、我れは生まれながらにして之を知る者に非ず。古を好み、敏にして以て之を求めたる者なり。

最初に、「我れは生まれながらにして之を知る」とありますが、ここでいう「之」とは「人間の生き方」のことです。孔子は論語で説いている「人間の生き方」について、「生まれたときから知っていたわけではないよ。」といっているのです。「古くからあるすばらしい本を読んで、一生懸命に勉強したから、自分は道を説けるようになったのですよ。」といっています。

福沢諭吉が「学問のすすめ」の中で説いていることも同じです。「この世の中の人間はみんな平等であるはずだ。でもこの世の中を見ると、実際は平等になっていない。それはなぜか」と、学ぶ人と学ばない人がいるからだ。一生懸命に勉強した人間と、しない人間では、当然、人間としての差が出てくる。それは当たり前だ。」といっているのです。だから君たちが一生懸命に勉強すれば、孔子と同じレベルに達することも不可能ではないのです。福沢諭吉も、「努力すれ

ば平等になる。」といっているのです。

誰でも少しでも上のレベルに行きたいという気持ちはあると思います。でも、ほとんどの人間は嫌なことを避けて通りたいがたがります。なんとなく苦しいことや嫌なことは避けて通って、楽な人生を歩みたいと思うのが人間というものではないのです。

目の前の嫌なことから逃げていると、人間は絶対に成長しません。そして、目の前の嫌なことに打ち克つには、今の自分の知恵だけでは足りません。それを克服するためには、どうすればよいかと考えて、一生懸命に勉強することが大切なのです。

参考図書 瀬戸謙介『子供が喜ぶ「論語」』(致知出版社)

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール 31

ドアを開けるときに後ろに人がいたら、その人のためにドアを押さえていよう。引いて開けるドアなら、まずドアを引き、次に脇によってあとにつづく人を先に通し、そのあときみが通るといい。押して開けるドアなら、まずドアを押してきみが通り、つぎの人のためにドアを押さえていよう。

ルール 32

だれかがぶつかってきたら、きみが悪くなくても、「すみません」とか「ごめんなさい」といおう。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～

(ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社)より

おかげさまで3周年！ 「Shikoトレ2012」

もう覚えてくれましたか？——Shikoトレとは、思考力トレーニングの略称、3回目を迎える2012年は、「読書感想文&意見文トレーニング第2弾」です。昨年度、みんなのがんばりで、入選者が多く出た名教夏の名物講座です。文章を書くことで、思考力を鍛えよう！そして、夏休みの宿題にもなる一石二鳥の企画です！詳しいご案内は、6/28(木)！乞うご期待！！